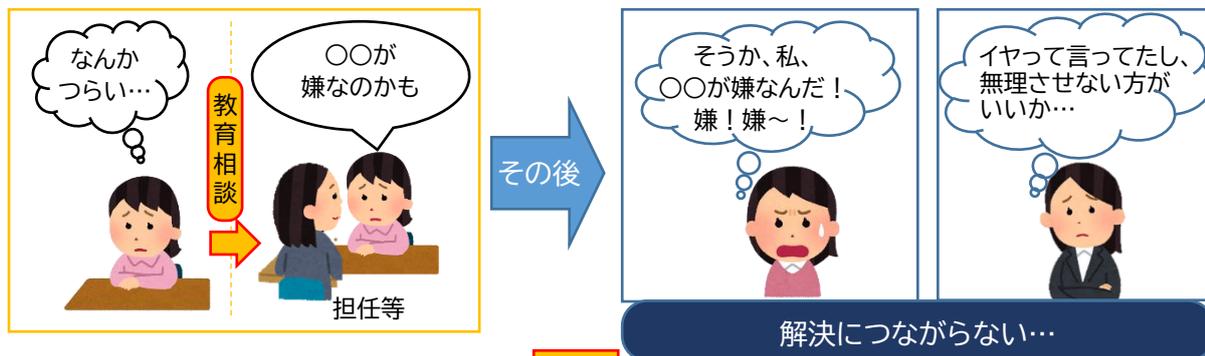


子どもたちが「思い」を言葉にできた後の対応

令和5年2月号でお伝えした「思いを言葉にしてみる」は、私たちが教育相談で大切にしていることの一つです。私たち大人は、子どもが思いを言葉にできたとき、次に何を大切にかかわっていくとよいでしょうか。今回は、「その後」について考えたいと思います。



解決につなげるために

- 理由や気持ちを聴く…何が嫌なのか、どうして嫌なのか
 ※嫌な経験や、偏ったとらえ方（失敗はしたくない、嫌なことを言われることへの拒絶等）による決めつけや思い込みもあります。まずは、経緯や理由を理解しましょう。
- 希望、目標を聴く…どうしたいのか、どうしなければならないのか、どうなりたいのか
 ※嫌なこと（回避できること）と、したいこと、しなければならないこと（あるいは、しなければならないと本人が思っていること）があります。区別し、整理する必要があります。
- 達成・克服の手順を考える…必要な手順と、どれなら取り組めるかを考える
 ※計画をたてることが苦手な子どももいますので、手順の提案が必要な場合もあります。
- 支援・選択肢を考える…できるためにはどんな支えがあればよいのか（人的環境、物的環境）

本人の話や思いを受け止め、状況改善に向けて、本人理解と環境づくりをしていくことが大切です。「この人に話してよかった」、「こうしてみようかな」と思ってもらえるようにしていきたいですね。

今年度も、多くの方に御相談いただき、子どもたちが学校生活や家庭生活に安心感や満足感を得ながら生活し、よりよく生きる力をつけるための教育相談を実施してきました。相談を担当する私たちも、微力ながら相談者の思いに向き合ってきました。その中で、本人、保護者、先生方から

- ・苦しさを話してくれたこと
- ・自分のやりたいことを見つけられたこと
- ・以前からの成長に気づいたこと
- ・保護者や学校の先生方が応援団になってくれたこと
- ・がんばったことを教えてくれたこと 等

たくさんの思いや行動を示していただきました。ありがとうございます。

そして、そんな我々の思いを示した「教育相談だより」をご覧くださいありがとうございました。

今後もそれぞれの場で丁寧に対話を重ねていきましょう。



教育相談係一同